

2. 健康市民おかやま21（第2次）最終評価 各論

(1) 健康を自覚できる人の増加、健やかな暮らしを支える社会環境の実現に関する目標

【目標5項目：10評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	3
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	0
C	変わらない	6
D	悪化している	1
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
健康を自覚できる人の割合	77.9%	81.3%	79.2%	80%	C
人を信頼できる人の増加	57.1%	62.3%	58.0%	増加	C

(すべての指標、目標値、達成状況、データの出典の詳細は、目標項目一覧(P.62~77)に掲載しています)

評価結果の概要

- *健康状態がよいと感じる人の割合は、中間評価以降減少していたが令和3(2021)年度は増加した。目標値に近づいたが、策定時から変化なし。
- *「65歳における平均余命」の伸びよりも、「日常生活動作が自立している期間の平均」の伸びが上回っていた。
- *健康格差は、策定時と直近値の区ごとの差を比較した。直近値の方が、区ごとの差が縮まっていた。
- *人を信頼できる人の割合は、中間評価よりは減少したが策定時から増加した。

イ. 関連した取組

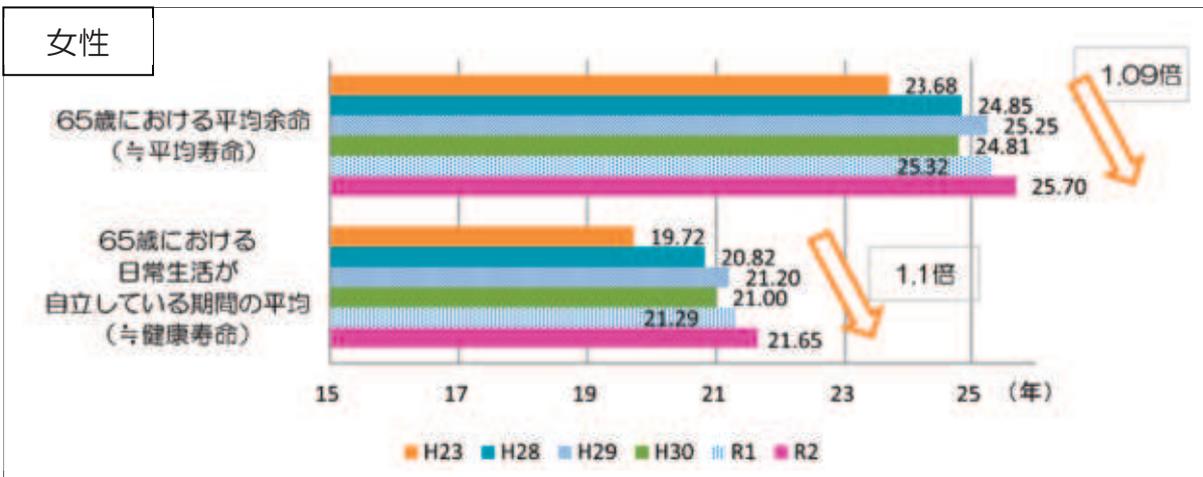
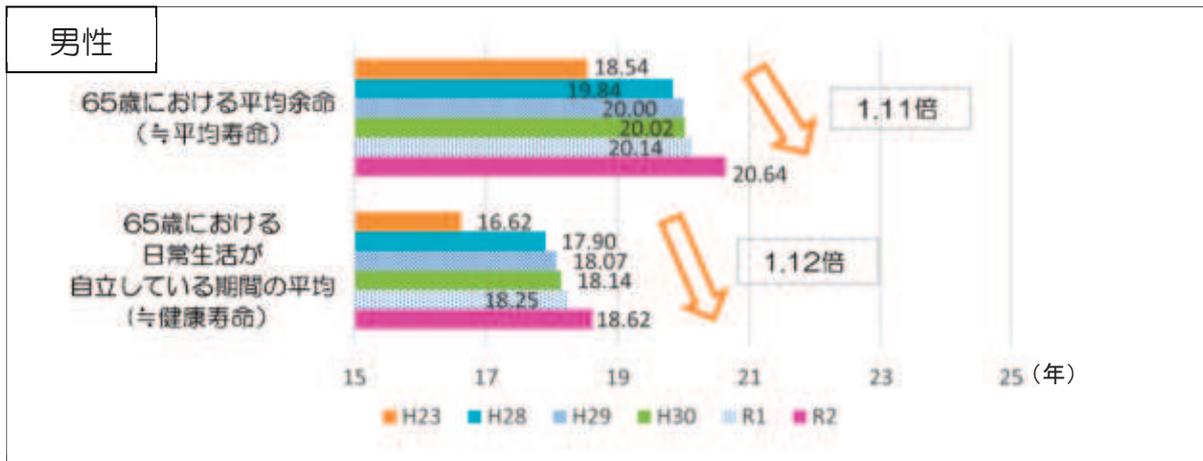
➤健康寿命延伸に向けて、「運動」、「栄養・食生活」、「生きがいづくり(社会参加)」を三本柱とし、ライフステージ毎に課題整理を行い、それぞれの事業を展開してきた。OKAYAMA!市民体操の普及、「ええとこ発見図(市内36中学校区のウォーキングマップ)」の作成と活用、高齢者の低栄養予防アドバイス事業、地域推進会議体制整備等

ウ. 今後の課題

- 引き続き、健康寿命の延伸、健康格差の縮小に向け、個人の行動と健康状態の改善として「運動」、「栄養・食生活」を中心に6分野の推進、「生きがいづくり(社会参加)」、ライフコース(胎児期から高齢期にいたるまでの人の生涯を経時的に捉える)を視点とした事業を展開し、地域におけるソーシャルキャピタルの醸成を図る。

岡山市の健康寿命について

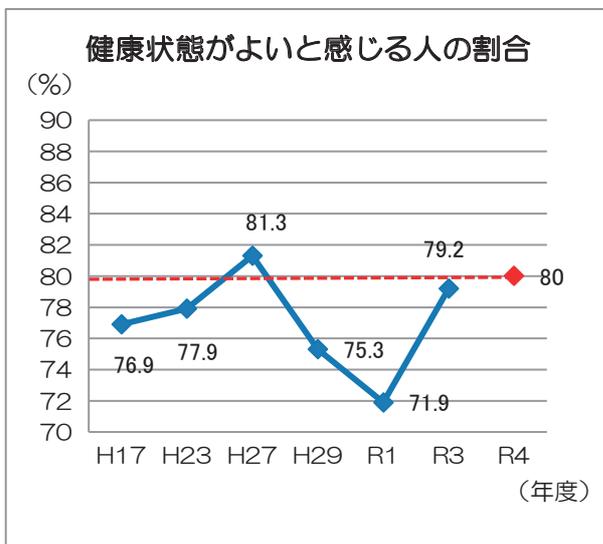
65歳における平均余命と日常生活動作が自立している期間の平均（平成23年と平成28年～令和2年）



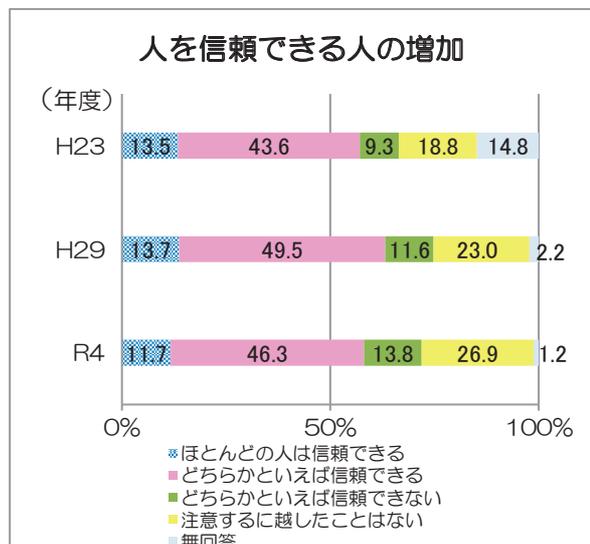
【資料：冊子「健康市民おかやま21（第2次）中間評価報告と今後の方向性」】

【資料：岡山市の平成29年～令和2年の人口動態統計と平成29年～令和2年の10月1日時点の推計人口、および平成29年～令和2年12月末時点の岡山市介護保険要介護認定者数計を用いて、「健康寿命の算定方法の指針」（平成24年度厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」）にもとづいて算出】

※65歳における日常生活動作が自立している期間の平均・・・※65歳から、要介護状態（要介護2以上）になるまでの平均的な期間のことを指す



【出典：岡山市市民意識調査】



【出典：健康市民おかやま21 市民アンケート】

(2) ライフステージに応じた健康づくりの推進に関する目標

1) 次世代の健康 【目標6項目：12評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	1
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	5
C	変わらない	1
D	悪化している	5
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
1週間の総運動時間が60分未満の子どもの減少	男子 10.5%	男子 6.8%	男子 9.8%	減少	C
	女子 24.2%	女子 12.7%	女子 18.1%	傾向	A
朝食を毎日食べている児童・生徒の割合の増加	小学生 86.4%	小学生 84.8%	小学生 85.9%	100%	D
	中学生 74.8%	中学生 77.7%	中学生 80.2%		B
適正体重の子どもの増加 (肥満傾向にある子どもの割合の減少)	小学生 6.1%	小学生 6.1%	小学生 8.6%	5%	D
	中学生 8.2%	中学生 7.6%	中学生 9.4%	7%	D

評価結果の概要

- * 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合は、中間評価では大幅に減少していたが、最終評価では中間評価時よりは男女ともに増加傾向である。
- * 朝食を毎日食べている児童・生徒の割合は、中学生は改善傾向にあるが、小学生は減少した。
- * 肥満傾向にある子どもの割合は、小学生・中学生ともに増加した。

イ. 関連した取組

- 妊娠届出時の保健指導 ➢妊婦・パートナー歯科健康診査での保健指導
- おやこクラブ・愛育委員会・栄養改善協議会等での健康教育
- 地域のイベント、健康市民おかやま21推進委員による啓発活動（むし歯予防等）
- 歯と口の健康相談 ➢学校保健委員会との連携 ➢スクールランチセミナー

ウ. 今後の課題

- ・朝食を毎日食べている小学生を増やすためには、保護者への働きかけが必要である。
- ・子どもの肥満対策は、食生活、運動など生活習慣全般を通じて考える必要がある。近年の子どもを抱える家庭の状況として、就業者の増加を踏まえ、ライフスタイルに応じた食生活や運動の工夫に関する情報提供が必要であり、学校・園との連携が不可欠である。

2) 青壮年期の健康 【目標4項目：8評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	3
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	0
C	変わらない	3
D	悪化している	2
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
適正体重を維持している人の割合の増加 （肥満（BMI25以上）、やせ（BMI18.5未満）の減少）	40～60歳代 男性肥満者 32.4%	40～60歳代 男性肥満者 34.0%	40～60歳代 男性肥満者 38.1%	40～60歳代 男性肥満者 33%	D
	40～60歳代 女性肥満者 16.5%	40～60歳代 女性肥満者 18.4%	40～60歳代 女性肥満者 20.0%	40～60歳代 女性肥満者 14%	D
従業員が「うつ」の正しい知識を学ぶ機会がある事業所の割合の増加	10.1%	12.0%	12.9%	50%	C
管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合の増加	16.7%	15.5%	18.2%	50%	C

評価結果の概要

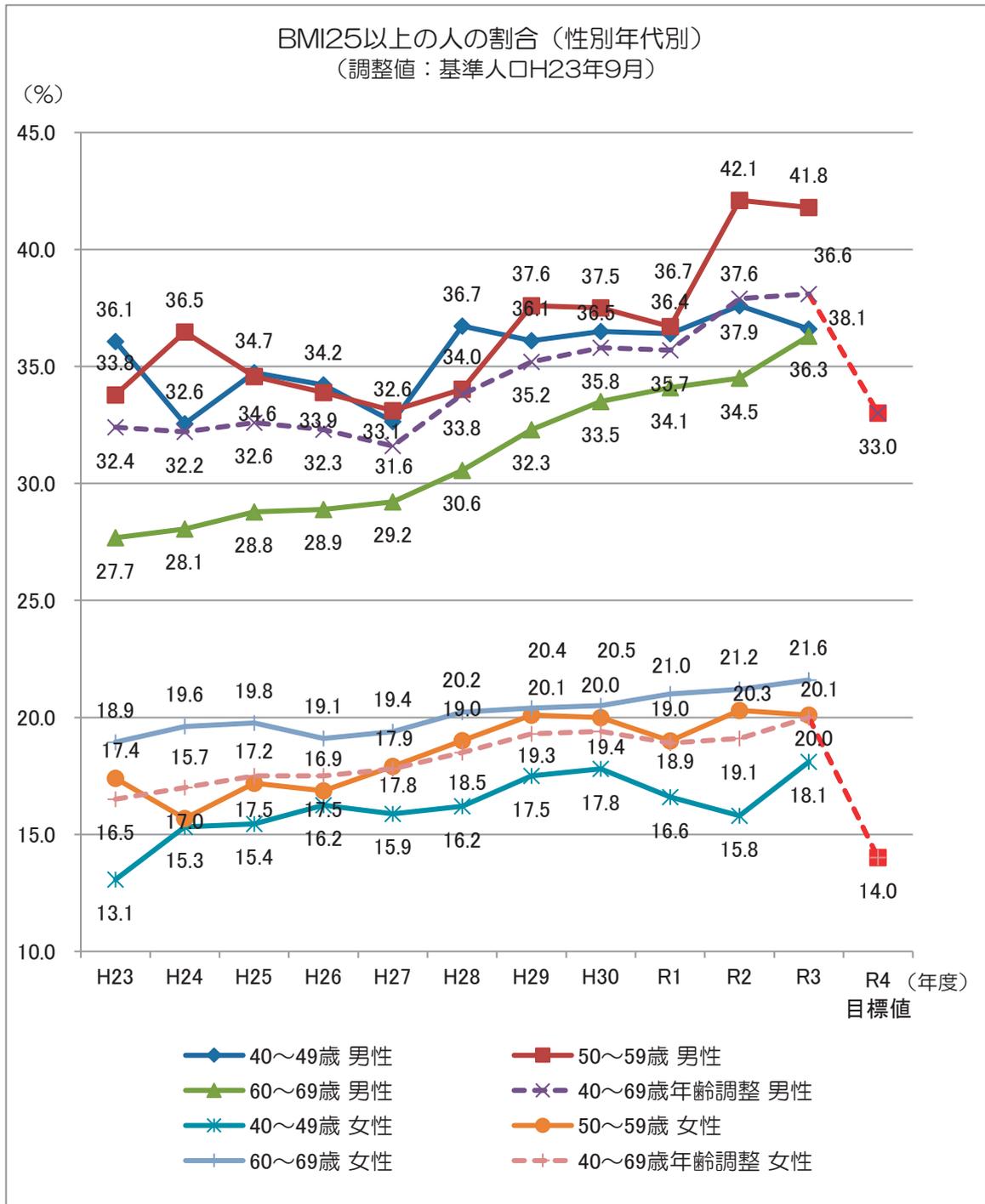
- *適正体重を維持している人の割合は、40～60歳代の男女ともに肥満者の割合が増加しなおかつ中間評価時よりも増加した。
- *従業員自身が、「うつ」の正しい知識を学ぶ機会がある事業所の割合、管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会のある事業所の割合は、増加傾向である。

イ. 関連した取組

- 特定保健指導
- 学生健康づくり応援事業
- OKAYAMA! 市民体操の普及
- ええとこ発見図の活用、ウォーキング大会の開催
- かるうま減塩プロジェクト
- 事業所を対象とした健康出前講座
- 歯周病検診
- 70万人市民トリオでウォーク（平成27・28年度）
- SIBを活用した事業
- 健幸ポイントプロジェクト
（国モデル実施：平成26～28年度、単市実施：平成29年度～30年度）
- おかやまケンコー大作戦（平成31年度～令和3年度）
- 続！おかやまケンコー大作戦（令和4年度～）

ウ. 今後の課題

- 肥満者に対するハイリスクアプローチが引き続き必要である。
- 地縁活動に限定されない場における健康づくりに向けた環境整備と行動変容を促すアプローチが必要である。
- 事業所や保険者など、職域保健との連携が今後さらに必要である。



【出典：国民健康保険特定健康診査】

3) 高齢期の健康 【目標7項目：10評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	4
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	2
C	変わらない	0
D	悪化している	3
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	1

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
75歳以上の低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の増加の抑制	26.3%	20.5%	19.2%	27%	A
65歳～74歳までの低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合の抑制	17.6%	18.7%	18.9%	16%	D
高齢者の社会参加の促進（過去1年間に何らかの地域活動に参加した割合）	42.9%	44.2%	38.1%	50%	D
歯の喪失防止（60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加（55～64歳））	64.6%	76.9%	80.4%	70% →80% （中間評価を経て修正）	A

評価結果の概要

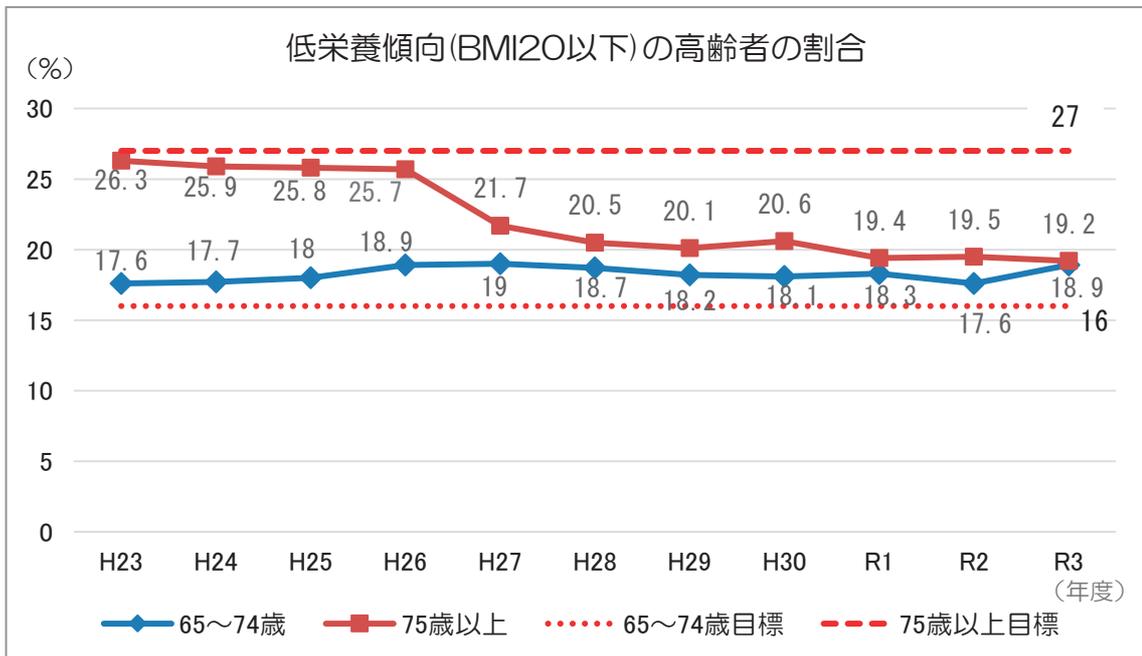
- * 75歳以上の低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者は減少したものの、65～74歳の低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者は増加した。
- * 過去1年間に何らかの地域活動に参加した割合は、策定時より悪化した。
- * 歯の喪失防止（60歳で24本以上の自分の歯を有する人）の割合は、増加した。

イ. 関連した取組

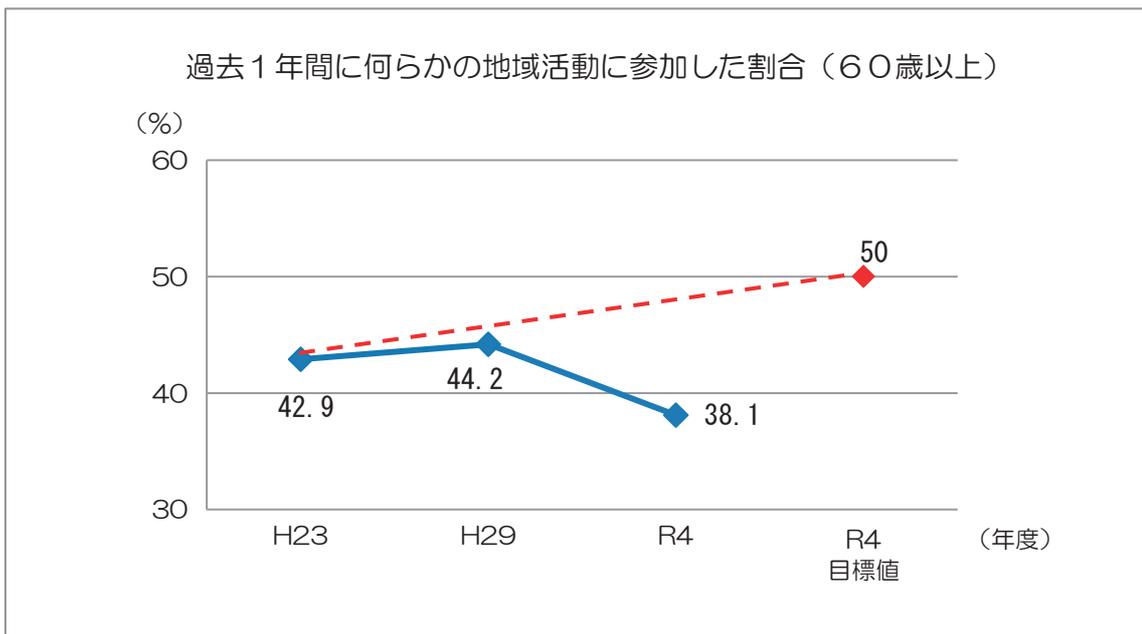
- 高齢者に対する低栄養予防アドバイス事業 ➢ OKAYAMA！市民体操の普及
- 後期高齢者低栄養予防保健指導 ➢ シニアの健康相談
- 歯周病検診 ➢ 歯と口の健康相談 ➢ 口腔ケア等導入支援事業
- 生涯活躍就労支援事業 ➢ 介護予防事業

ウ. 今後の課題

- 75歳に達する前の効果的な対策（「運動」、「栄養・食生活」「社会参加」等）が、引き続き必要である。
- 高齢者の社会参加の状況は、新型コロナウイルス感染症の影響も関連していると考えられる（参考：最終評価市民アンケート コロナ前と比べ人との関わりの機会が減った48.3%（60歳以上））が、今後も社会参加を促し、生きがいが得られるような社会環境整備が必要である。また、「地域包括ケアシステム」の推進に寄与するような人材育成と環境整備につながるソーシャルキャピタルの醸成が必要である。



【出典：64～74歳：国民健康保険特定健康診査
75歳以上：後期高齢者健康診査】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

(3) 6分野の健康づくり及び生活習慣病への対策に関する目標

1) 6分野の健康づくり

①栄養・食生活 【目標6項目：17評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	4
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	1
C	変わらない	5
D	悪化している	6
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	1

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
エネルギー、栄養成分を表示している飲食店の割合の増加	11.3%	19.0%	29.6%	増加	A
適正体重を維持している人の割合の増加 (肥満(BMI25以上)、やせ(BMI18.5未満)の減少)	40~60歳代 男性肥満者 32.4% 40~60歳代 女性肥満者 16.5%	40~60歳代 男性肥満者 34.0% 40~60歳代 女性肥満者 18.4%	40~60歳代 男性肥満者 38.1% 40~60歳代 女性肥満者 20.0%	40~60歳代 男性肥満者 33% 40~60歳代 女性肥満者 14%	D
食塩を控えている人の割合の増加	52.6%	50.0%	46.9%	57%	D
家族や友人と共に食事をする人の割合の増加	1日1回以上 55.3%	1日1回以上 50.2%	1日1回以上 60.6%	増加	A
バランスのよい食事をとっている人の割合の増加	54.9%	54.9%	39.2% (参考値)	60%	E

評価結果の概要

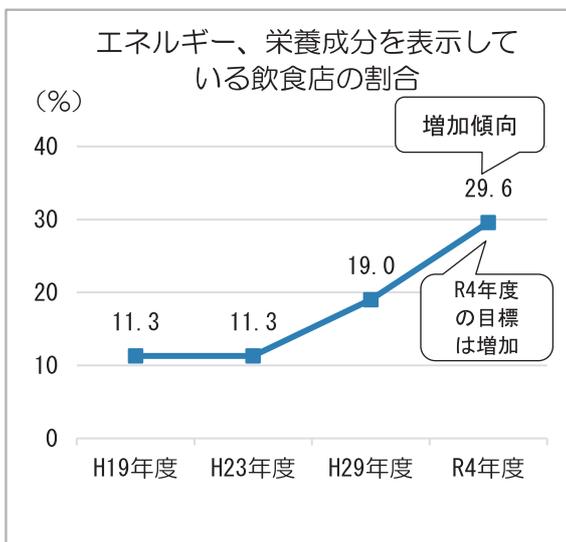
- * エネルギー、栄養成分を表示している飲食店の割合は、有意に増加した。
- * 40~60歳代の男女で、肥満者が増加した。
- * 食塩を控えている人の割合は、減少した。
- * 家族や友人と共に食事をする人、果物を週1回以上食べている人の割合は増加した。
- * バランスのよい食事をとっている人の割合については、中間評価時まで「いろいろな種類の食品をバランスよくとっている」という主観的な指標を用いていたが、最終評価において、国に揃え、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者」に指標を変更したため、「E:評価困難」と判定した。

イ. 関連した取組

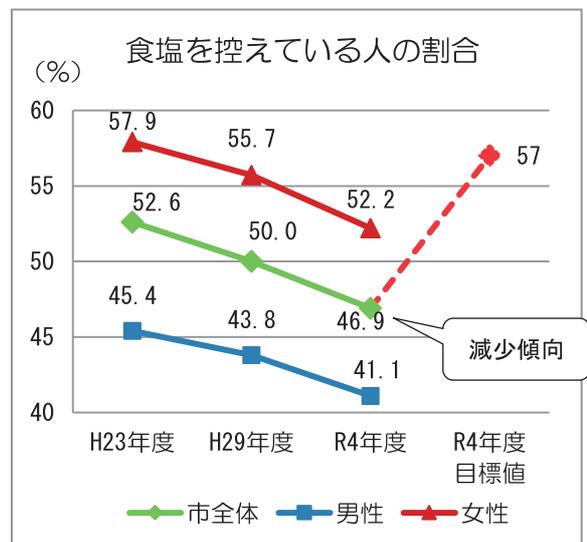
- 学生健康づくり応援事業
- かるうま減塩プロジェクト
- チラシ・ポスターによる普及啓発
- 健康相談を活用しての知識の普及
- 食育SAT システムを活用しての知識の普及
- 特定保健指導
- 後期高齢者低栄養予防保健指導
- 学区・地区食生活改善事業
- おかやまケンコー大作戦

ウ. 今後の課題

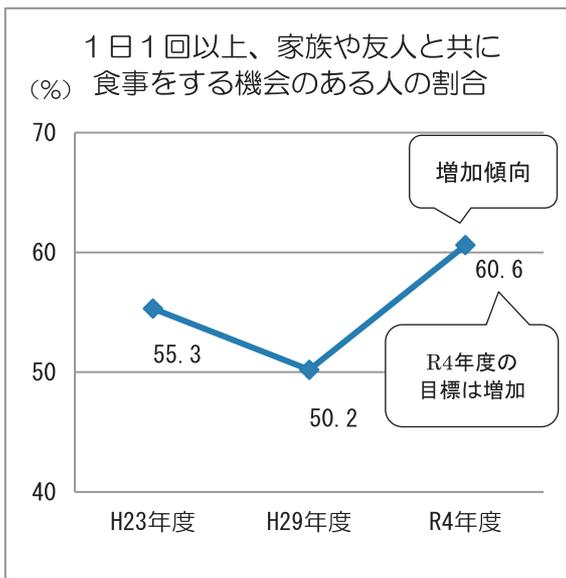
- ・ライフコースに応じたアプローチが必要である。
- ・栄養バランス、野菜摂取、減塩に関する具体的な取組の普及を図る必要がある。あわせて社会環境の整備への取組をさらに進める必要がある。



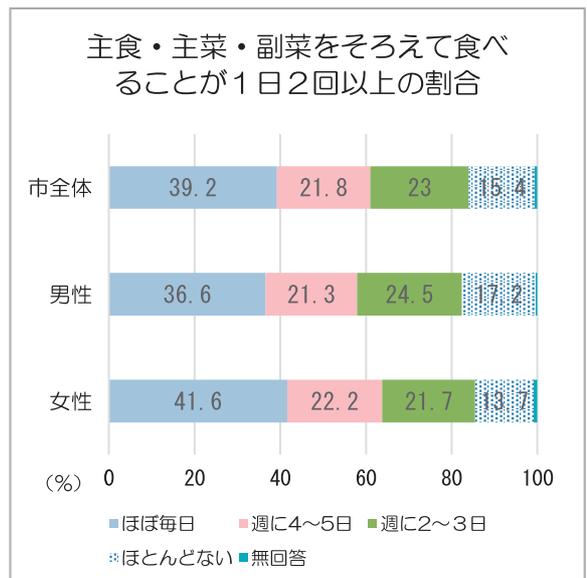
【出典：健康市民おかやま21市民アンケート（飲食店）】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

②身体活動・運動 【目標4項目：8評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	5
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	0
C	変わらない	1
D	悪化している	2
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
1週間の総運動時間が60分未満の子どもの減少	男子 10.5%	男子 6.8%	男子 9.8%	減少傾向	C
	女子 24.2%	女子 12.7%	女子 18.1%		A
運動習慣者の割合の増加	20~64歳 男性 30.1%	20~64歳 男性 32.3%	20~64歳 男性 35.1%	20~64歳 男性 33%	A
	20~64歳 女性 22.1%	20~64歳 女性 22.6%	20~64歳 女性 24.6%	20~64歳 女性 24%	A
	65歳以上 男性 56.9%	65歳以上 男性 47.3%	65歳以上 男性 44.6%	65歳以上 男性 63%	D
	65歳以上 女性 48.2%	65歳以上 女性 42.3%	65歳以上 女性 39.9%	65歳以上 女性 53%	D
住民が運動しやすい環境整備に寄与している施設、団体の増加	施設 6 団体 20	施設 25 団体 28	施設 30 団体 45	増加	A

評価結果の概要

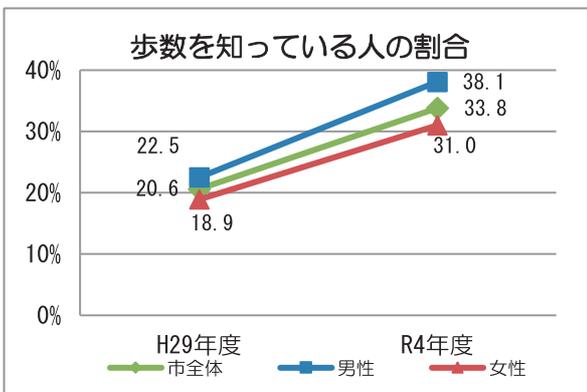
- * 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合について、中間評価時には男子女子ともに大幅に減少していたが、最終評価時にはコロナの影響もあり男女ともに増加した。女子はベース値より減少傾向がみられるが、男子はほぼ横ばいである。
- * 運動習慣のある（※1回30分以上、週2回以上、1年以上継続しているものを指す）人の割合は、20~64歳までの男女では増加しており、目標値も達成した。65歳以上の男女においては、減少の一途をたどっている。
- * 住民が運動しやすい環境整備に寄与している施設、団体数は、増加している。

イ. 関連した取組

- OKAYAMA！市民体操の普及啓発
- 「ええとこ発見図」を活用したウォーキング大会等の開催
- 70万人市民トリオでウォーク（平成27・28年度）
- まちなか健康スタンプラリー（平成27～28年度）
- 「ええとこ発見図」36か所巡り（平成29年度）
- SIBを活用した事業について
 - ・健幸ポイントプロジェクト
（国モデル実施：平成26～28年度、単市実施：平成29年度～平成30年度）
 - ・おかやまケンコー大作戦（平成31年度～令和3年度）
 - ・続！おかやまケンコー大作戦（令和4年度）
- AIアプリを活用した特定保健指導（令和元年度～）
- 特定保健指導対象者運動クーポン（令和3年度～）

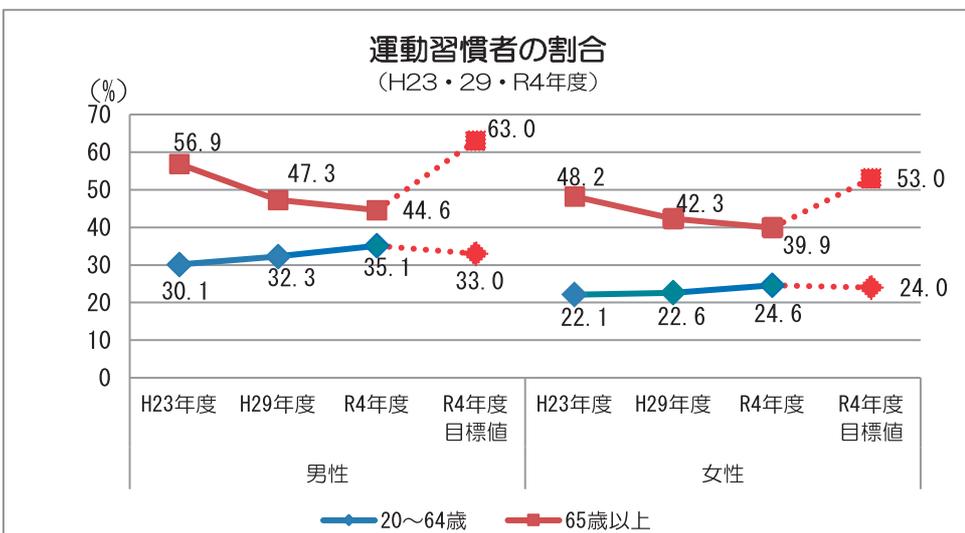
ウ. 今後の課題

- ・各年代に応じた身体活動増加に向けたアプローチを行う必要がある。特に、運動習慣が減少している高齢者については、外出や社会参加等を促すなかで運動を促すなどの工夫が必要である。
- ・日常生活活動量が増えるよう、「今より10分多く身体を動かす」ことを意識し、歩数増加に意識を向けたり、楽しく身体を動かす機会を提供する必要がある。
- ・より一層SNS等を活用したアプローチを取り入れていく必要がある。



H29年度で現状把握。
R4年度目標値は、「増加」のため
目標達成!

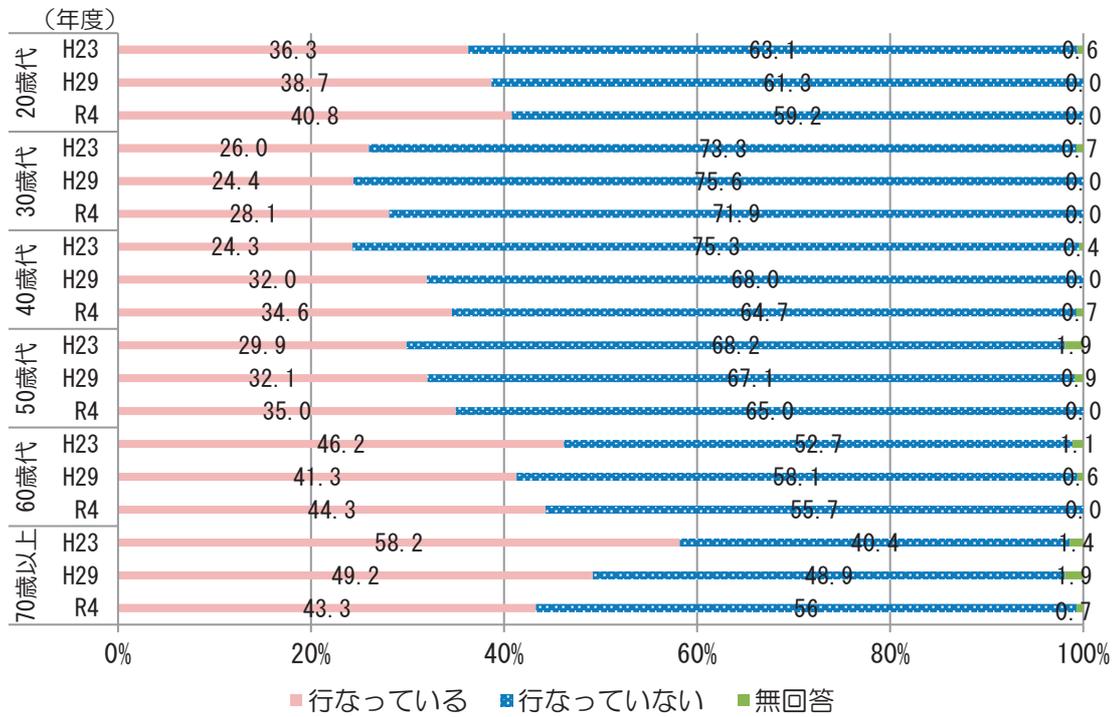
【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】



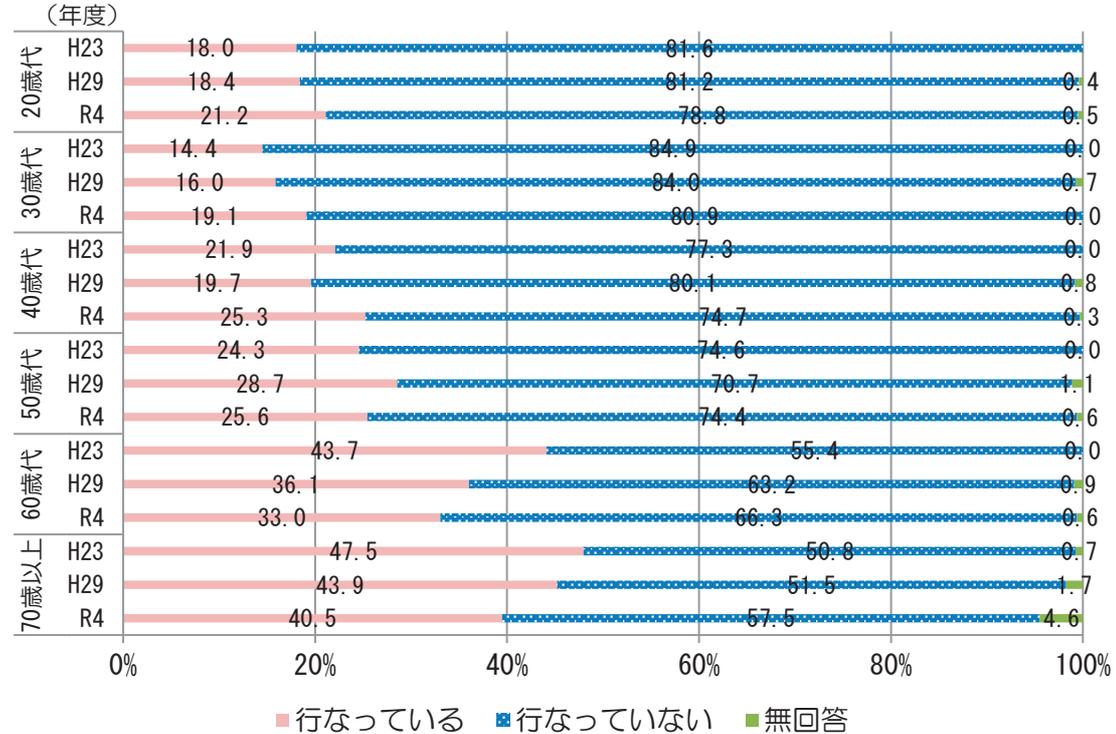
【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

20～64歳のうち、中間評価時には減少していた世代（30歳代の男女、40歳代女性）でも最終評価時では増加。一方で、65歳以上は男女ともに減少が続いている。

運動習慣の割合推移（1回30分以上週2日以上）：年代別・男性



運動習慣の割合推移（1回30分以上週2日以上）：年代別・女性



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

③こころ・休養 【目標5項目：8評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	4
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	0
C	変わらない	3
D	悪化している	0
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	1

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
自殺者の減少（人口10万人当たり） ※1 出典変更	20.7	18.8	17.2	減少	A
ストレスを感じたとき、相談できる人、場所がある人の割合の増加	男性 73.8% 女性 88.2%	男性 77.1% 女性 89.2%	男性 78.2% 女性 91.7%	増加	A
管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合の増加	16.7%	15.5%	18.2%	50%	C
睡眠による休養を十分にとれていない人の割合の減少 ※2 出典変更	(18.7%) 22.0%	(22.8%) 22.3%	22.3%	11% →15% ※2	C

※1 人口動態統計から警察統計に変更

※2 健康市民おかやま 21 市民アンケートから国民生活基礎調査に変更。出典変更に伴い、目標値も健康日本 21（第二次）に合わせて 15%に変更

評価結果の概要

*自殺者は策定時よりは減少したため目標には達したが、新型コロナウイルス感染症との関連もあり、令和 2（2020）、令和 3（2021）年度は増加した。

*ストレスを感じたとき、相談できる人、場所がある人の割合は、策定時と比較すると男女ともに増加した。

*管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合は、中間評価から比べると増加したが、策定時と比較すると変化なし。

*睡眠による休養を十分にとれていない人の割合は、策定時と比較すると変化なし。

イ. 関連した取組

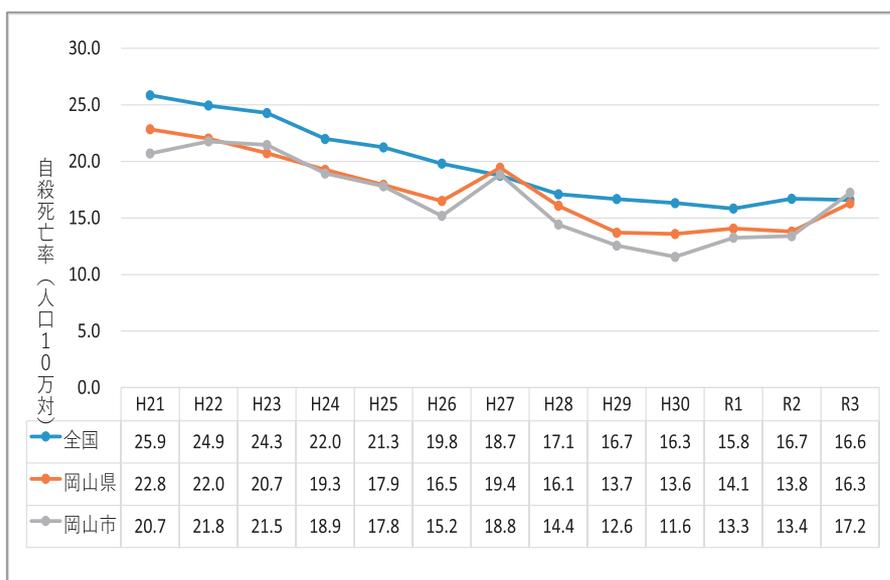
➤各地域におけるこころの健康に関する健康教育

➤自殺予防に向けた普及啓発（ゲートキーパー研修・地域での健康教育・市民ホールでのパネル展示等）（平成 27（2015）年 4 月「岡山市自殺予防情報センター」開設（平成 29（2017）年 4 月「岡山市自殺対策推進センター」に名称変更））

ウ. 今後の課題

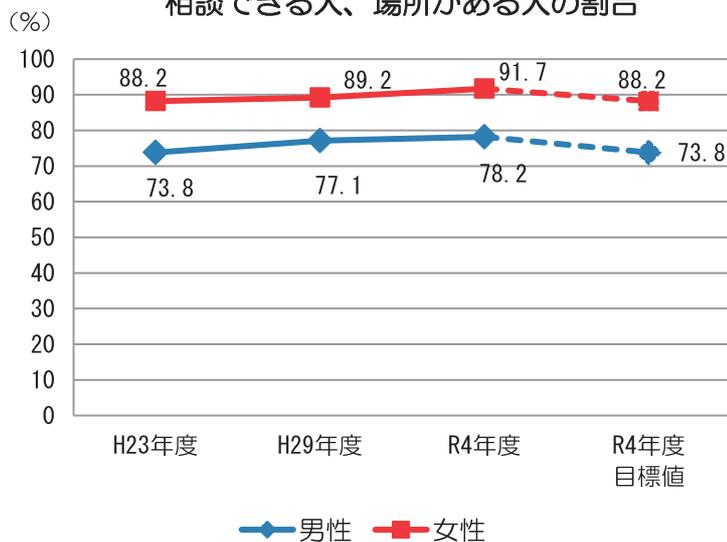
- 年代に応じて、ストレスに対処できるよう、適切な情報提供や相談できる機会の提供の強化など、継続して取組を行う必要がある。
- 睡眠による休養の大切さについての普及啓発は、継続して行っていく必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症の流行は、こころの健康に大きく影響を及ぼしているため、今後の対策がより重要である。（市民アンケート調査の新型コロナウイルス感染症に関するストレスの項目では、男性より女性の方が増えたと回答した人が多かった）

全国、岡山県及び岡山市の自殺死亡率の推移



【資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（警察統計 発見日・居住地）より岡山市作成】

ストレスを感じたとき、相談できる人、場所がある人の割合



【出典：岡山市健康市民おかやま21市民アンケート】

④飲酒 【目標4項目：8評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	1
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	5
C	変わらない	2
D	悪化している	0
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
多量飲酒（1日3合以上）している人の割合の減少	男性 3.7%	男性 3.4%	男性 3.3%	男性 3.2%	C
	女性 0.4%	女性 0.4%	女性 0.3%	女性 0.2%	C
妊娠中の飲酒をなくす	3.4%	2.5%	1.8%	0%	B
アルコール依存症についての認知度の向上（アルコール依存症についての学習の機会を設けている事業所の割合の増加）	4.4%	5.3%	9.7%	増加	A

評価結果の概要

- * 多量飲酒（1日3合以上）している人の割合は、策定時と比較して男女ともに減少したが、有意な変化はなし。
- * アルコール依存症についての学習の機会を設けている事業所の割合は、増加したが、有意な変化はなし。

イ. 関連した取組

- 飲酒に関するパネル展示（岡山市役所本庁舎市民ホール等）
- 適正飲酒に関する健康教育
- 職域依存症対策推進事業（岡山市こころの健康センター実施）

ウ. 今後の課題

- 改善傾向だが、引き続き、適正飲酒やアルコール関連問題に関する正しい知識の普及は必要である。
- 職域におけるアルコール依存症に関する学習機会の提供については、引き続き、企業へのアプローチが必要である。

⑥喫煙 【目標4項目：15評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	2
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	11
C	変わらない	2
D	悪化している	0
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
成人の喫煙率の低下 (喫煙をやめたい人がやめる)	18.1%	14.7%	12.6%	禁煙希望者が禁煙することによる成人の喫煙率 8%	B
	男性 31.5%	男性 23.7%	男性 21.2%	男性 15%	B
	女性 8.4%	女性 6.3%	女性 4.9%	女性 3%	B
受動喫煙を防ぐ環境整備 終日禁煙もしくは完全分煙 に取り組んでいる事業所・ 飲食店の増加	事業所 57.6%	事業所 59.3%	事業所 87.7%	事業所 88%	B
	飲食店 34.7%	飲食店 52.1%	飲食店 84.5%	飲食店 54%	A

評価結果の概要

- * 喫煙率は、男女ともに、策定時より有意に減少した。
- * 改正健康増進法の施行（令和2年4月1日）で、受動喫煙対策（全面禁煙又は空間分煙）を講じている事業所・飲食店の割合は有意に増加し、受動喫煙に関する環境整備が進んだ。
- * 受動喫煙の機会を有する人の割合については、職場、飲食店、行政機関においては、有意に減少したが、家庭、医療機関においては、変化はなかった。路上において受動喫煙の機会を有する人の割合が最も高い傾向にあった。

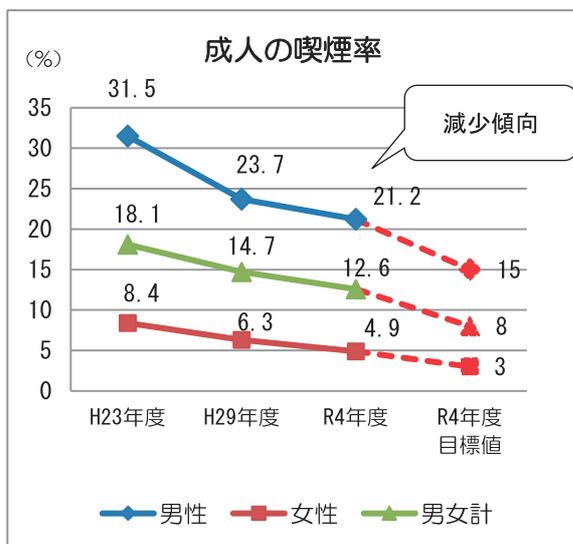
イ. 関連した取組

- 喫煙者への ABR（禁煙のための短時間支援）の実施
(健診受診時、おやこ手帳（母子手帳）交付時、幼児健診受診時)
- 医療機関での禁煙治療受診の普及啓発
- 「敷地内全面禁煙実施施設」認定事業（岡山県への協力事業）

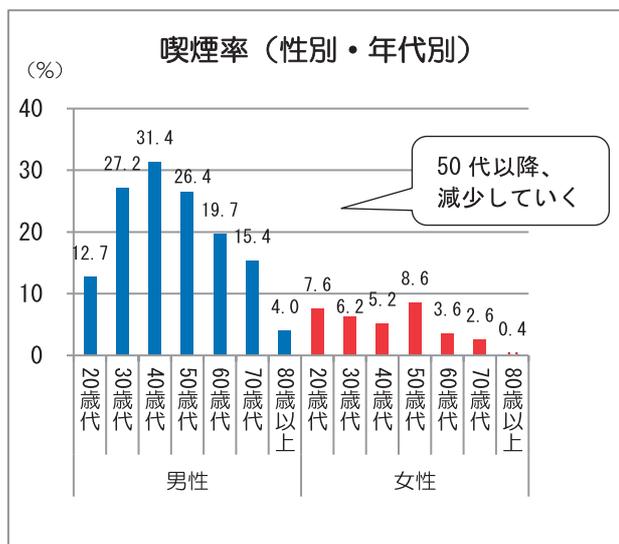
- 未成年への喫煙防止教育
- 子どもへの影響の大きい父母へたばこが健康に与える影響についての知識の普及啓発
- 屋内禁煙施設専用標識（岡山市空気のおいしい施設ステッカー）配布事業
- 受動喫煙対策に関する施設管理者や市民などからの相談、通報対応
- 新規飲食店に対し、改正健康増進法の周知（食品営業許可届出時）

ウ. 今後の課題

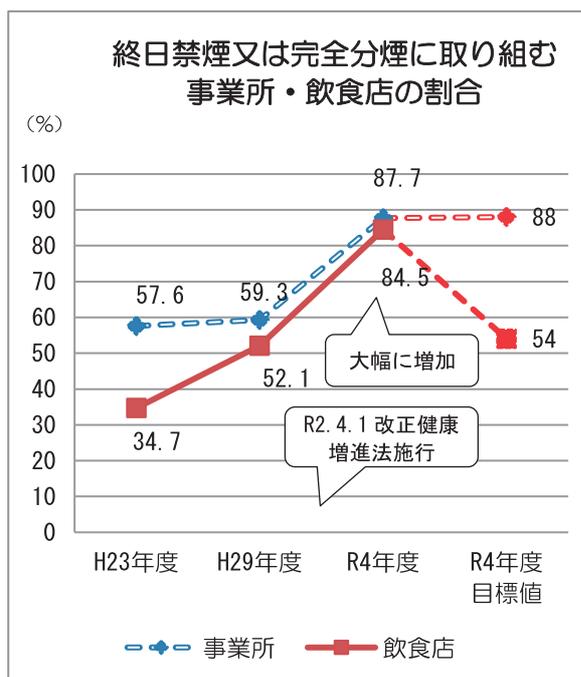
- ・改正健康増進法の実効性を高めるため、関係施設や市民への周知が必要である。
- ・国のすすめる受動喫煙対策の動向を踏まえ、喫煙をやめたい人がやめる支援と家庭や屋外を含め、望まない受動喫煙を防ぐ環境整備に取り組むことが必要である。



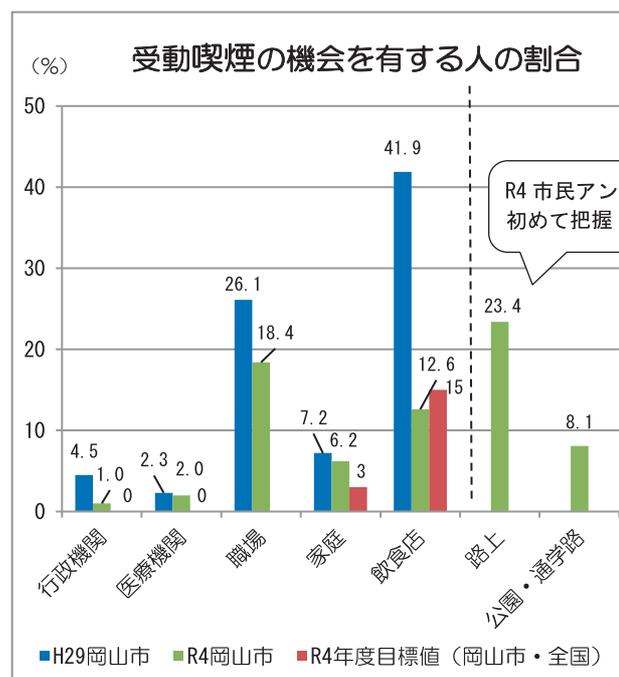
【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート（飲食店・事業所）】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】

⑥歯・口腔の健康 【目標5項目：10評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	3
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	4
C	変わらない	0
D	悪化している	3
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
歯の喪失防止(60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加(55~64歳))	64.6%	76.9%	80.4%	70% →80% (中間評価を経て修正)	A
過去1年間に歯科検診を受診した人の増加	29.5%	45.1%	52.4%	65%	B
60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加	(68.3%)	54.1%	58.4%	80%	B
歯周病を有する人の割合の減少	48.1%	51.5%	67.3%	25%	D
3歳児でむし歯がない児の割合の増加	78.1%	81.0%	86.5%	90%	B
12歳児の一人平均むし歯数の減少	0.72本	0.54本	0.53本	0.3本	B

評価結果の概要

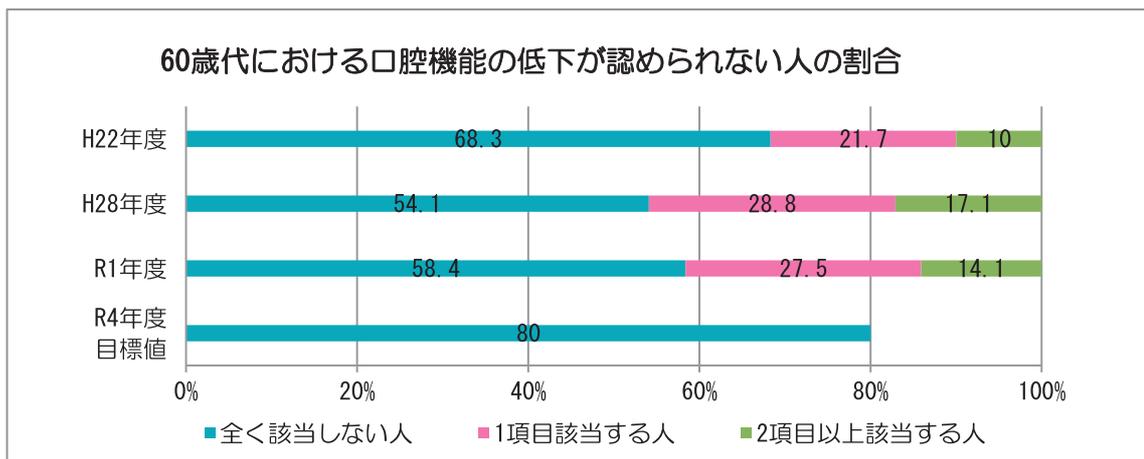
- * 歯の喪失防止(60歳で24本以上の自分の歯を有する人)の割合は、増加した。
- * 過去1年間に歯科検診を受診した人は、増加した。
- * 60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合は、中間評価時から比較すると増加した。
- * 3歳児、12歳児のむし歯の状況は、策定時より改善した。

イ. 関連した取組

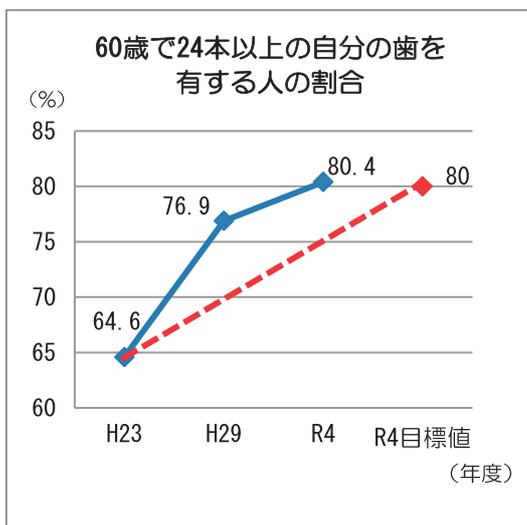
- おやこクラブ等健康教育 ➢1歳6か月児歯科健康診査 ➢三歳児歯科健康診査
- フッ素洗口、フッ素洗口連絡会 ➢歯と口の健康相談 ➢歯科保健教育
- 歯と口の健康週間図画・ポスターコンクール ➢口腔衛生優良校及び努力校表彰
- 歯科研修会（教職員対象） ➢健康教育・相談 ➢歯周病検診
- 妊婦・パートナー歯科健康診査 ➢毎週・毎月介護予防教室
- あっ晴れ！もも太郎体操普及・啓発 ➢元気スマイル教室（通所・訪問）
- 入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業 ➢口腔機能向上プログラム
- 多職種意見交換会 ➢在宅療養支援強化研修

ウ. 今後の課題

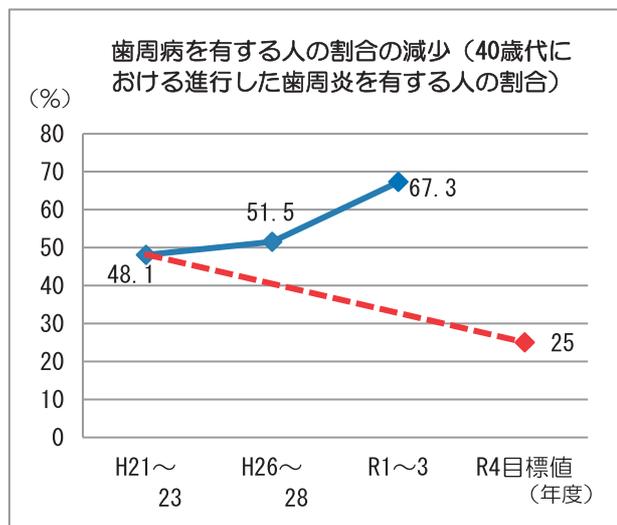
- ・口腔機能の維持・向上の重要性について、市民の認知度を高める必要がある。
- ・障害者（児）、要介護者が歯科治療・指導が受けられる環境整備の拡大についても進めていく必要がある。
- ・さらに、歯周病対策に関する市民への周知と適切な治療ができるような働きかけが必要である。



【出典 H22：岡山市基本健康診査 介護予防のための生活機能評価票（基本チェックリスト）】
 【出典 H28、1：岡山市高齢者実態調査（介護予防・日常生活支援調査：一般高齢者調査）】



【出典：健康市民おかやま21市民アンケート】



【出典：岡山市歯周病検診】

2) 生活習慣病への対策

①がん 【目標2項目：9評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	3
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	3
C	変わらない	3
D	悪化している	0
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少（10万人当たり） ※1 出典変更	H20～H24 82	H25～H29 72	H29～R3 67	69	A
がん検診の受診率の向上 ※2 出典変更					
胃がん検診	男性 50.8%	男性 48.9%	男性 54.7%	男性60% →50%	A
	女性 39.9%	女性 37.7%	女性 48.3%	女性 50%	B
肺がん検診	男性 55.4%	男性 54.1%	男性 55.1%	男性65% →50%	A
	女性 49.3%	女性 47.7%	女性 48.2%	女性60% →50%	C
大腸がん検診	男性 44.6%	男性 43.6%	男性 47.1%	男性 50%	B
	女性 38.4%	女性 38.4%	女性 41.1%	女性 50%	B
子宮頸がん検診	女性 47.1%	女性 45.9%	女性 46.0%	女性 50%	C
乳がん検診	女性 45.7%	女性 44.4%	女性 45.4%	女性 50%	C

※1 75歳未満のがんの年齢調整死亡率（10万人あたり）：5年移動平均値に変更

※2 がん検診受診率と目標値：出典を国民生活基礎調査に変更。そのため目標値も国と合わせて50%に変更

評価結果の概要

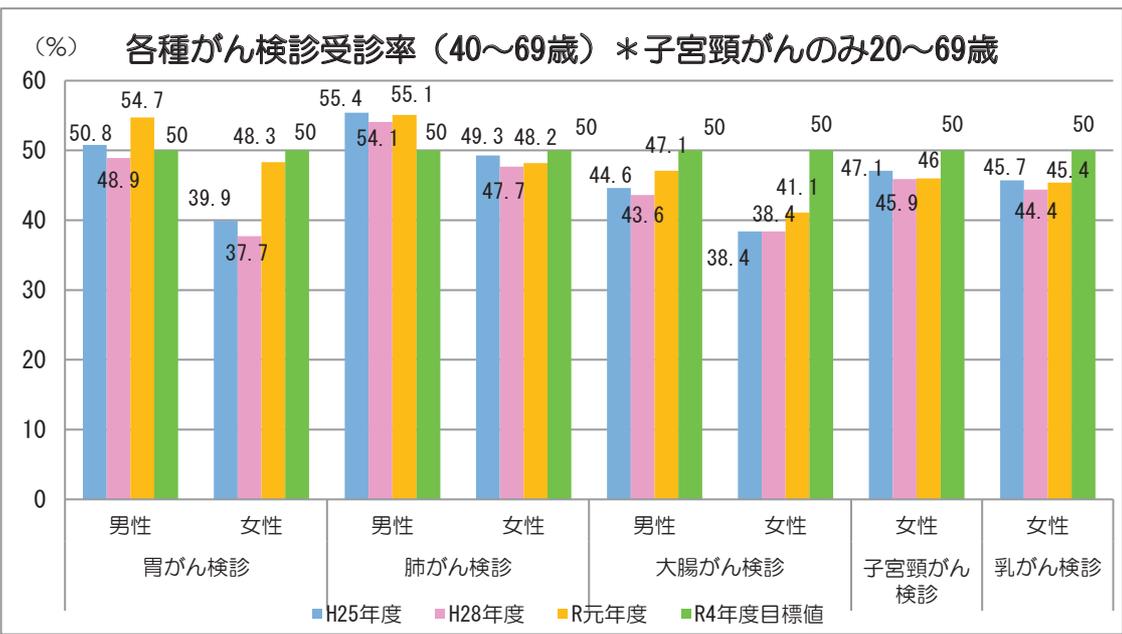
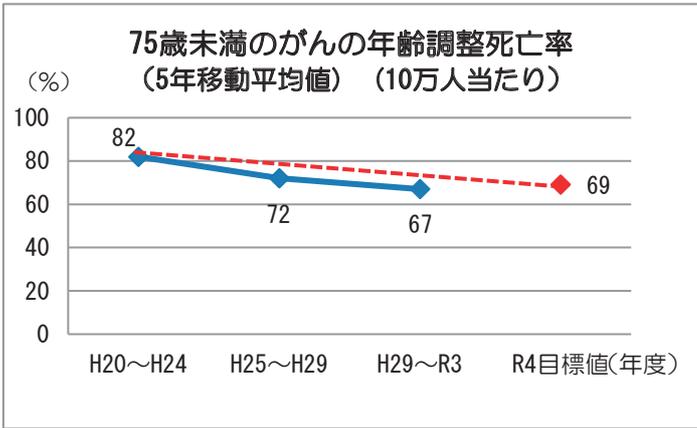
- * 75歳未満のがんの年齢調整死亡率（10万人あたり）は、経年的に減少しており、目標値に達した。
- * がん検診の受診率は、男性の胃がん検診・肺がん検診で増加し、目標値に達した。
- * 女性の胃がん検診、男女の大腸がん検診において増加傾向である。

イ. 関連した取組

- 各種がん検診の実施
(胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん・肝炎ウイルス検査)
- がん検診の普及・啓発
 - ・個別受診勧奨ハガキ送付
 - ・職域(企業・保険者)、大学等との連携
- がん検診精検受診勧奨事業 ➢精度管理指標フィードバック事業
- 肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップ事業
- がんに関する健康教育、中学校・高校でのがん教育
- たばこ対策：健康教育、禁煙のための短時間支援(ABR)

ウ. 今後の課題

- ・がん検診受診率向上及び精度向上。
- ・疾病や検診の意義に対する理解と啓発。
- ・ターゲットを絞り、重点的な普及・啓発を行う必要がある。
- ・職域(企業・保険者)、大学等とのさらなる連携が必要である。



②循環器疾患 【目標5項目：10評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	4
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	1
C	変わらない	3
D	悪化している	2
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
脳血管疾患・ 虚血性心疾患 の年齢調整 死亡率（10万 人当たり）の 減少 ※ 出典変更	（H20～H24） 〈脳血管疾患〉 男性 46.0 女性 27.0 〈虚血性心疾患〉 男性 34.4 女性 14.5	（H25～H29） 〈脳血管疾患〉 男性 36.0 女性 20.0 〈虚血性心疾患〉 男性 33.8 女性 12.9	（H29～R3） 〈脳血管疾患〉 男性 29.0 女性 15.0 〈虚血性心疾患〉 男性 30.8 女性 10.0	〈脳血管疾患〉 男性 41.4 女性 24.1 〈虚血性心疾患〉 男性 32.3 女性 13.3	A A A A
最高血圧値の 平均値の低下	収縮期血圧 男性 131mmHg 女性 129mmHg	収縮期血圧 男性 131mmHg 女性 127mmHg	収縮期血圧 男性 131mmHg 女性 129mmHg	収縮期血圧 男性 127mmHg 女性 125mmHg	C C
脂質異常症の 減少（LDL コ レステロール 60mg/dl以上 の割合の減少）	男性 9.0% 女性 14.4%	男性 9.3% 女性 14.5%	男性 10.3% 女性 14.9%	男性 7% 女性 11%	D C
メタボリック シンドローム の該当者及び 予備群の減少	30.2%	30.3%	33.7%	23%	D
特定健康診査 受診率向上	24.6%	28.6%	32.2%	37%	B

※ 脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率（10万人当たり）：5年移動平均値に変更

評価結果の概要

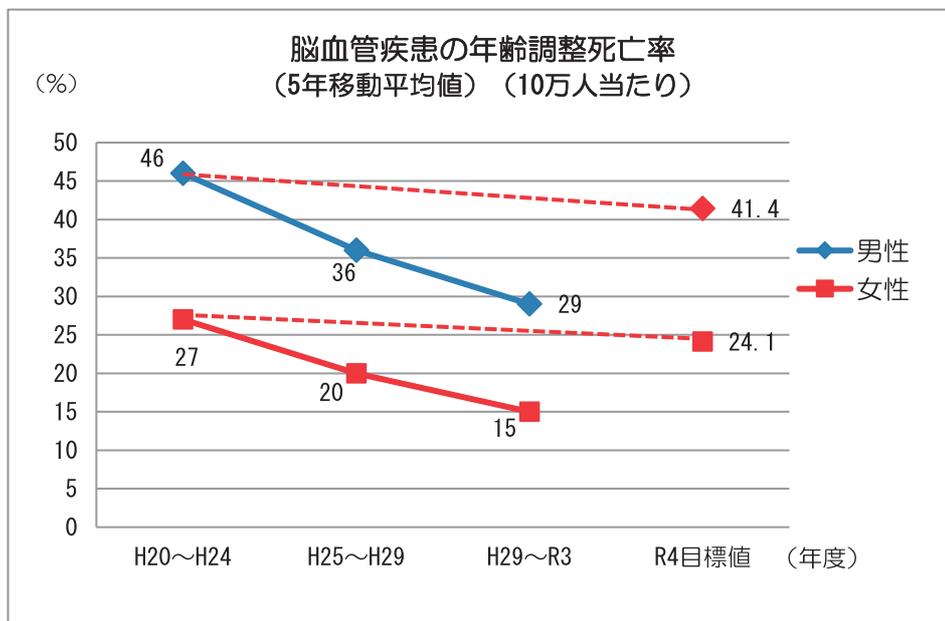
- *脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率（10万人当たり）は、経年的に減少し、目標値を達成した。
- *最高血圧値の平均値は、ほぼ変化はなかった。
- *脂質異常症については、男性はやや増加していた。女性はほぼ変化はなかった。
- *メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合は、有意に増加していた。
- *特定健康診査受診率は、策定時より増加した。

イ. 関連した取組

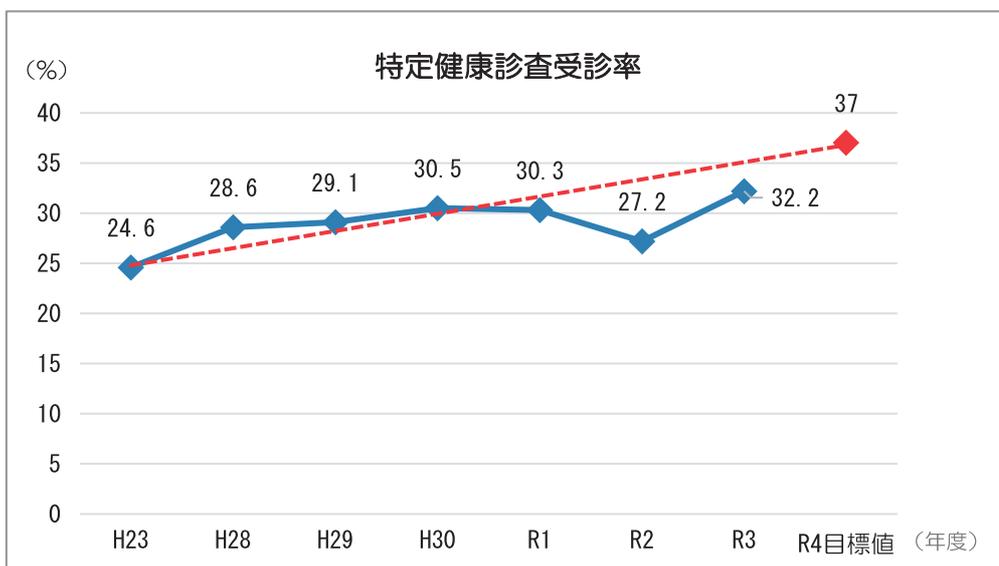
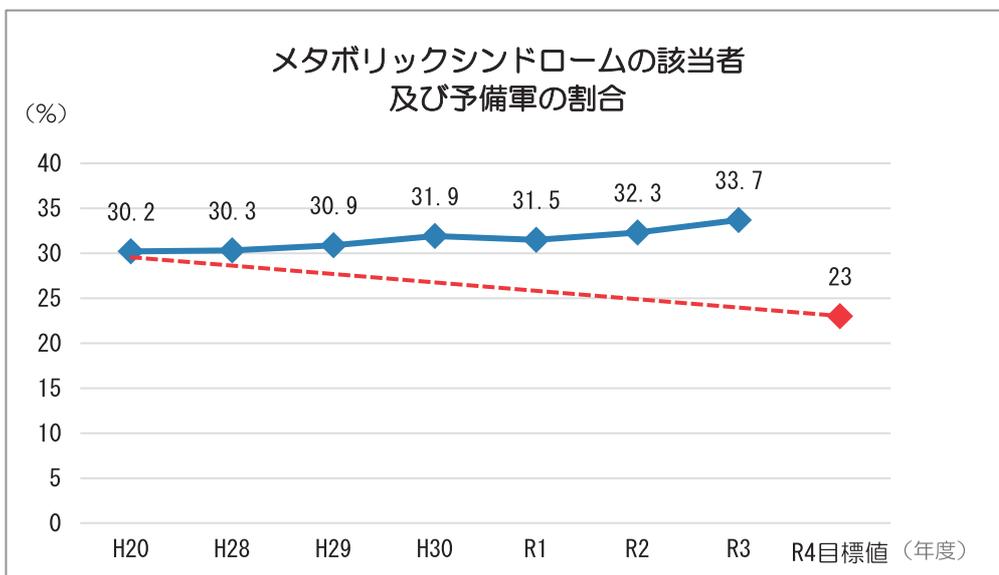
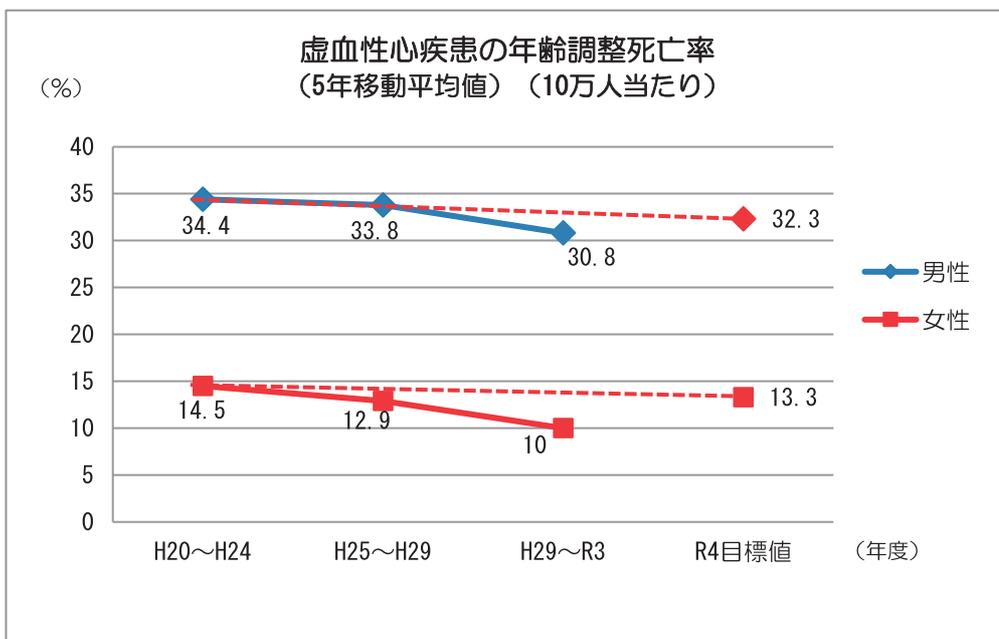
- 岡山市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導、後期高齢者・生保健診
- かるうま減塩プロジェクト
- 高齢者に対する低栄養予防アドバイス事業
- 食生活改善事業（岡山市栄養改善協議会への委託事業）
- 生活習慣病重症化予防・訪問指導
- 健康教育・健康相談

ウ. 今後の課題

- ・高血圧性疾患や脂質異常症等の循環器疾患の罹患率減少に向けて、血圧や体重の自己管理が適切にできるよう、減塩に関する知識の普及および、肥満者に対するハイリスクアプローチが必要である。



【出典：人口動態統計】



③糖尿病 【目標5項目：5評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	0
B	目標値には達していないが改善した	2
C	策定時値を比較してほぼ変化なし	0
D	策定時値と比較して悪化している	3
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	0

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
合併症（年間新規腎透析導入患者数）の減少 （身体障害者手帳（じん臓機能障害）新規交付数）	168人	188人	222人	減少	D
治療継続者の割合の増加 （HbA1c(NGSP)6.5%以上の人のうち治療中の割合）	45.2%	54.4%	54.3%	75%	B
糖尿病有病者の増加の抑制 （糖尿病治療中またはHbA1c(NGSP)6.5%以上割合）	9.1%	9.6%	11.8%	9%	D

評価結果の概要

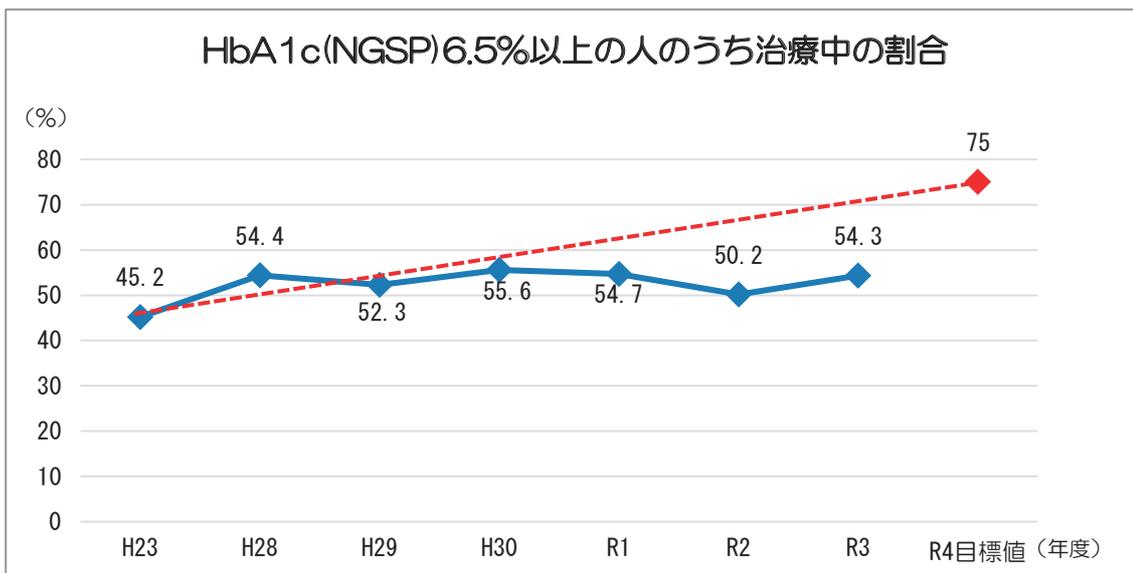
<p>* 合併症（年間新規腎透析導入患者数）として、身体障害者手帳（じん臓機能障害）新規交付数は、増加した。</p> <p>* 治療継続者（HbA1c(NGSP)6.5%以上の人のうち治療中の人の割合）は、有意に増加しており、治療が必要な人は治療につながっている傾向がみられた。</p> <p>* 糖尿病有病者（糖尿病治療中またはHbA1c(NGSP)6.5%以上割合）の割合は、有意に増加していた。</p>

イ. 関連した取組

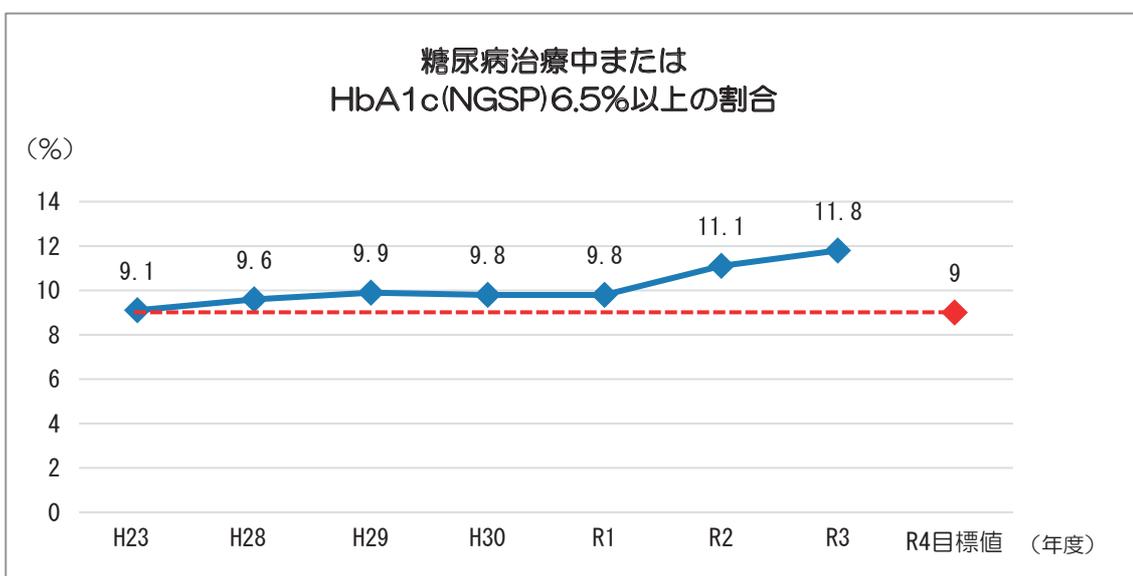
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 岡山市国民健康保険特定健康診査（R3～ナッジ理論を活用した個別受診勧奨）・特定保健指導、後期高齢者・生保健診 ➢ けんしん受診率向上対策 ➢ 生活習慣病重症化予防・訪問指導 ➢ 健康教育、健康相談

ウ. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> • 肥満者に対するハイリスクアプローチ及び、糖尿病の指摘を受けた者へのハイリスクアプローチが必要である。



【出典：岡山市国民健康保険特定健康診査】



【出典：岡山市国民健康保険特定健康診査】

(4) 市民、民間、専門団体、地区組織、ヘルスポランテニア、公民館、学校園などとの連携による健康づくりの推進に関する目標

【目標8項目：14評価】

ア. 指標の状況

策定時の値と直近値を比較		項目数
A	目標値に達した	5
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	2
C	変わらない	4
D	悪化している	2
E	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難	1

主な目標項目	策定時	中間評価時	最終評価時	目標値	達成度
地域のつながりの強化 (過去1年間に地縁的な活動をした割合)	33.4%	39.9%	31.3%	44%	D
健康市民おかやま21推進 宣言登録者数の増加	19,683人	38,879人	45,427人	34,000人→ 53,000人 (中間評価を 経て修正)	B
健康づくりに関する活動に 取り組む企業の増加(健康 市民おかやま21推進宣言 登録企業数)	69社	83社	85社	増加	A
健康づくりに関する活動に 取り組む団体や施設の増加 (健康市民おかやま21推 進宣言登録団体・施設数)	団体 190	団体 392	団体 422	増加	A
	施設 848	施設 961	施設 1026	増加	A
組織間のネットワーク数の 増加及び強化	組織数 800	組織数 1,123	組織数 938 (P. 50参照)	増加及び 強化	A

評価結果の概要

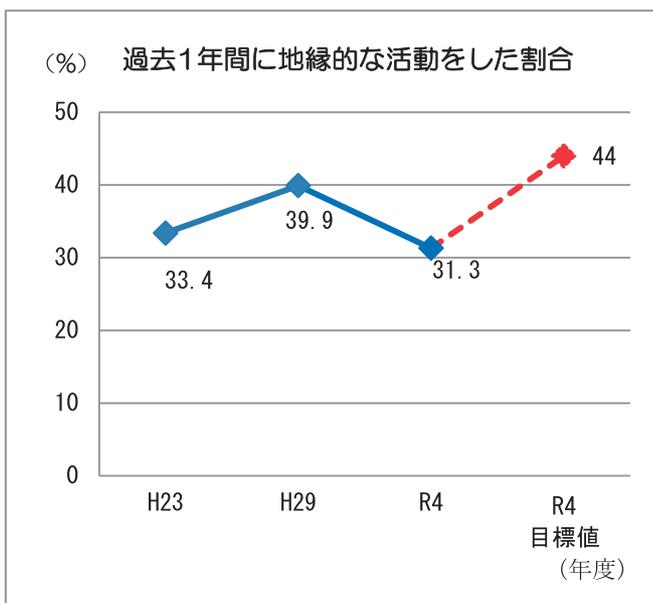
- * 地域のつながり(過去1年間に地縁的な活動に参加した人)の割合は、中間評価時には増加したが、最終評価時は減少した。新型コロナウイルス感染症の影響があると考えられる。
- * 健康市民おかやま21推進宣言登録として、健康づくりに関する活動に取り組む市民は増加した。企業および施設・団体(健康市民おかやま21推進宣言登録)、いずれも増加した。
- * 組織間のネットワーク数の増加及び強化については、連携する組織数も増加しており、連携の強さを測った「レベル評価(レベル1~4)」においても、最も連携の強い「レベル4」の組織数が最も多く占めていた。

イ. 関連した取組

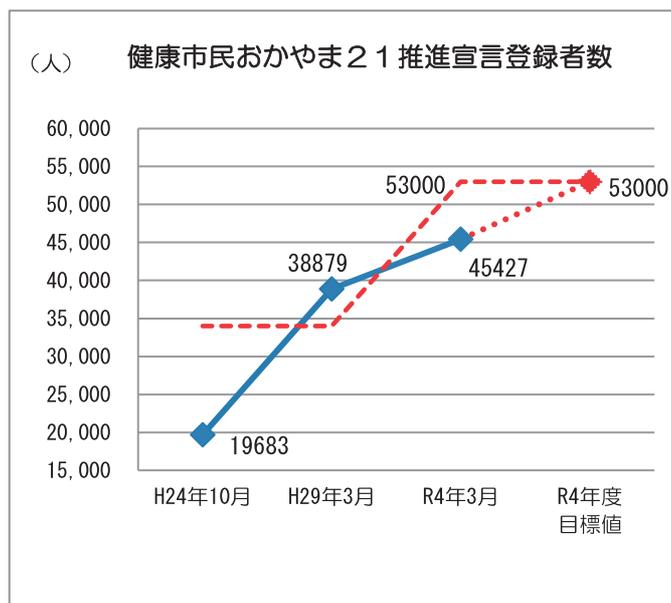
- 健康市民おかやま21 地域推進会議・各地域の特性に応じた活動展開
- ええとこ発見図の作成および活用
- 健康市民おかやま21 推進宣言等登録事業
- 桃太郎のまち健康推進応援団の取組 ➢事業所を対象とした健康出前講座
- 大型ショッピングモールでの健康相談の実施およびイベントの協力
- スクールランチセミナー ➢学生健康づくり応援事業
- 屋内禁煙施設専用標識（岡山市空気のおいしい施設ステッカー）配布事業

ウ. 今後の課題

- ・学校や企業等、関係する機関と「Win win」な関係を構築し、健康づくりに関する取組を広げていくことが必要である。
- ・地縁関係を強化する活動は今後も継続することが必要だが、地縁に限らずゆるやかな関係の構築も必要である。
- ・健康づくりを含めた「地域包括ケアシステム」の構築に寄与する人材の発見および育成については今後も継続していく。



【出典：健康市民おかやま21 市民アンケート】



【出典：健康市民おかやま21 市民アンケート】